



鏡台山の姿が
全然違うのはどうして？

歌川広重作

さらしな
たごとつき
きょうだいさん
更科田毎月鏡台山

の謎を解く！

広重は姨捨に
来たことがあるの？

一つ一つの田に月が映る「田毎の月」を全国に広めたのが、江戸時代の浮世絵師歌川広重の「信濃更科田毎月鏡台山」。中秋の月が上ることによって有名な鏡台山は、実際の姿とは全然違います。なぜ？ そもそも広重は当地を訪れたことがあるのか？……なぞの解けるお話がたっぷりです。

7月26日（土）

13：00～14：30

受付は12時半から開始

（質問の時間を設けます）

会場：千曲市八幡公民館
（千曲市八幡 3311）

入場料：200 円（資料代込み）

【講師】山岸哲^{さとし}さん



講師紹介 山岸さんは長野県須坂市生まれ。信州大学を卒業、京都大学などで教授を務めた後、日本鳥類学会会長や山階鳥類研究所所長を歴任。トキの野生復帰にも尽力。令和5年度信毎賞を受賞しました。

今回の講演は、国立民族学博物館の同人誌「千里眼」に掲載された論考（元清泉女学院大学教授＝近世日本文学＝の玉城司さんと共同執筆）の内容を、写真をたくさん使って分かりやすくお話するものです。山岸さんは昔から浮世絵が大好きだったそうです。

お問い合わせ：080-3027-9037 info@sarashina-r.com（大谷善邦）

主催：千曲市日本遺産推進協議会



さらしなルネサンス